

日本学術振興会科学研究費（基盤研究C） 成果学術書Ⅲ【縄文後半期篇】  
일본 학술진흥회 과학 연구비 기반 연구C 성과학술서Ⅲ【조몬 후반기편】

# 対馬暖流ベルト地帯をめぐる 縄文後半期の農耕関連具類に関する再評価

“쓰시마 난류 벨트지대” 를 둘러싼 조몬 후반기의  
농경 관련 도구류에 관한 재평가

*The Re-Evaluation of Agriculture Related Tools about  
the “Tsushima Warm Current Belt Zone” in the second half of Jomon Period*

幸泉 満夫 著 *Edited & Written by KOIZUMI Mitsuo*

国立大学法人 愛媛大学法文学部 *Faculty of Law & Letters Ehime University*



2024. 2

研究代表者 幸泉 満夫 Principal Investigator: KOIZUMI Mitsuo

令和元～五年度 日本学術振興会科学研究費 Japanese Society for the Promotion of Science

基盤研究（C） Grand-in Aid for Scientific Research on Area C

研究課題番号 19K01097 Fiscal Year 2020-2024, Project Number 19K01097

対馬暖流ベルト地帯周辺における縄文農耕の実証化に向けた関連石器類の広域基盤研究

쓰시마 난류 벨트지대 주변에서의 조몬 농경 실증화를 위한 관련 석기류의 광역기반 연구

The basic study of the agricultural stone tools around the Tsushima warm current belt zone in Jomon period.

対馬暖流ベルト地帯をめぐる  
縄文後半期の農耕関連具類に関する再評価

“쓰시마 난류 벨트지대”를 둘러싼 조몬 후반기의  
농경 관련 도구류에 관한 재평가

*The Re-Evaluation of Agriculture Related Tools about  
the “Tsushima Warm Current Belt Zone” in the second half of Jomon Period*

幸泉 満夫 著 *Edited & Written by KOIZUMI Mitsuo*

研究代表者 *Principal Investigator*

愛媛大学法文学部 *Faculty of Law & Letters Ehime University*

2024. 2

研究代表者 幸泉 満夫 *Principal Investigator: KOIZUMI Mitsuo*

令和元～五年度 日本学術振興会科学研究費 *Grand-in Aid for Scientific Research on Area C*

基盤研究 (C) *Japanese Society for the Promotion of Science*

研究課題番号 19K01097 *Fiscal Year 2020-2024, Project Number 19K01097*

対馬暖流ベルト地帯周辺における縄文農耕の実証化に向けた関連石器類の広域基盤研究

쓰시마 난류 벨트지대 주변에서의 조몬 농경 실증화를 위한 관련 석기류의 광역기반 연구

*The basic study of the agricultural stone tools around the Tsushima warm current belt zone in Jomon period.*

## はじめに

本書は、科研課題「対馬暖流ベルト地帯周辺における縄文農耕の実証化に向けた関連石器類の広域基盤研究」(19K1097基盤研究C)にかかる成果学術書の第三弾である(以下、成果学術書Ⅲ)。わが国における初期農耕段階の実態解明を前提に、縄文後半期(縄文中期末葉以降)にかかる関連学史の整理と分類基準の提示ののち、科研事業として作成してきた同段階の農耕関連具、その他に関する実測図の数々を一挙公開する。

併せて、本研究課題では研究代表者(以下、筆者)が提唱する「対馬暖流ベルト地帯」(幸泉2024aほか)の一部、実態解明も目標としている。

第Ⅰ部では、本課題の目的と対象時間軸の設定に続き、これまでの研究経過を纏めた。

第Ⅱ部では、縄文中期末以降の西日本を評価するうえで避けては通れない、「東日本縄文文化複合体西漸説」に関する2023年までの関連学史を整理し、本書の目的を明確にする。

第Ⅲ部では、関連石器群に対する広域横断的な分類基準を設定した。

第Ⅳ部は、本書の主翼部分である。採択初年(2019年)度以降、筆者が蓄積してきた実測図類の数々のうち、本書では「対馬暖流ベルト地帯」関連を中心に444点を紹介する。

第Ⅴ部では、本書の主要テーマである縄文後半期以降における初期農耕関連具類の分布と変遷傾向、ならびにその多様性等に関して、“多量出土傾向”をキーワードに、現時点における一連の成果を総括、速報する。

† † † † † † † †

本課題は2020年3月以降、約二年間に及んだコロナ禍の影響から、当初計画の大幅な行動自粛と計画変更を余儀なくされた。しかしながら、2021年11月の福井県立若狭歴史博物館における中間成果発表講演会の実施と、縄文農耕の関連学史を纏めた『成果学術書Ⅰ』発刊を契機に、同年秋以降には相応のリスクを負いながらも急速な巻き返しを図ってきた。最終の2023年度には北九州市立自然史・歴史博物館と下関市立考古博物館で最終成果発表講演会を、また同年8月末には縄文前半期の成果を収めた『成果学術書Ⅱ』を、さらに今回、縄文後半期を対象とした本書の公開へと繋げることができた(『成果学術書Ⅲ』)。

ぜひ、これまでの成果学術書Ⅰ、Ⅱ等、関連業績と併せてご活用頂きたい。

2024年2月29日

愛媛大学法文学部  
幸 泉 満 夫

## 目 次

はじめに	1
<b>第Ⅰ部 本書の目的および研究課題の推移と概要</b>	
第1章 研究の目的と本書の概要	7
第2章 研究経費	9
第3章 研究実施の経過	9
<b>第Ⅱ部 縄文後半期をめぐる関連学史の検討</b>	
第1章 渡辺誠による東日本縄文文化複合体西漸説の提唱とその概念	11
第2章 東日本縄文文化複合体西漸説をめぐるその後の学界動向	14
第3章 本書の目的と課題の設定	17
1. 問題の所在	17
2. 本書の目的	19
<b>第Ⅲ部 分類基準</b>	
第1章 斧形石器群の分類	21
1. (粗) 打製石斧をめぐる列島内の分類視座	21
2. 韓半島における石製土掘具類をめぐる分類視座	22
3. 本書における斧形石器群の分類	22
第2章 収穫・除草具とその可能性のある刃器群の分類	25
第3章 脱殻・粉碎関連石器群の分類	29
<b>第Ⅳ部 基盤研究成果報告</b>	
— 縄文後半期における初期農耕関連具ほかの二次資料化およびその比較検証 —	
第1章 対馬周辺域	31
1. 長崎県対馬市ヌカシ貝塚 第Ⅳ・Ⅲ層	31
2. 長崎県対馬市ヌカシ貝塚 第Ⅱ層	33
3. 長崎県対馬市志多留貝塚	34
第2章 西北部九州周辺域	36
1. 佐賀県伊万里市金剛島遺跡	36

2. 佐賀県唐津市徳蔵谷遺跡 第1次調査区	37
3. 佐賀県有田町坂ノ下遺跡	37
4. 佐賀県唐津市徳蔵谷遺跡 第3次調査区	38
5. 福岡県糸島市長野宮ノ前遺跡	38
6. 佐賀県伊万里市打越遺跡	38
7. 佐賀県唐津市赤松海岸遺跡	39
8. 佐賀県唐津市五反田松本遺跡	40
9. 佐賀県佐賀市金立開拓遺跡	40
10. 福岡県糸島市広田遺跡	40
<b>第3章 博多湾周辺域</b>	41
1. 福岡市桑原飛櫛貝塚	41
2. 福岡市四箇遺跡	42
3. 福岡県那珂川市深原遺跡	42
4. 福岡県朝倉市クリナラ遺跡	42
5. 福岡県福岡市大原D遺跡	43
6. 福岡県福岡市雀居遺跡 9次	45
7. 福岡県福岡市福重稲木遺跡 1・2次	45
<b>第4章 東北部九州・西中国周辺域</b>	46
1. 福岡県北九州市脇田丸山遺跡	46
2. 福岡県鞍手町新延貝塚 後期上層	46
3. 福岡県北九州市貫川遺跡 13次	47
4. 福岡県北九州市下吉田遺跡	48
5. 福岡県北九州市菊水町遺跡	48
6. 福岡県北九州市山崎遺跡	49
7. 福岡県北九州市中畑遺跡	49
8. 福岡県上毛町上唐原了清遺跡	49
9. 山口県下関市永福遺跡	50
10. 福岡県北九州市貫川遺跡 11・12次	50
11. 福岡県北九州市貫川遺跡 2次	51
12. 福岡県北九州市貫川遺跡 8次 第3地点	52
13. 福岡県行橋市流末溝田遺跡 SX01	53
14. 山口県下関市延行条里遺跡 餅田・六ノ坪地区	53
15. 山口県下関市柳瀬遺跡	53
<b>第5章 山陰西部域</b>	54
1. 島根県益田市石ヶ坪遺跡 1次	54
2. 島根県益田市石ヶ坪遺跡 8次	55
3. 島根県江津市森原下ノ原遺跡 上層	55
4. 島根県益田市田屋ノ原遺跡	56
<b>第6章 山陰中部域</b>	56
1. 島根県飯南町下山遺跡 2区第2黒色土	56
2. 島根県飯南町五明田遺跡 I次	57
3. 島根県飯南町板屋Ⅲ遺跡 第2黒色土	57
4. 島根県飯南町五明田遺跡 Ⅲ次	57
5. 鳥取県大山町豊成上金井谷峰遺跡	58
6. 鳥取県米子市古市河原田遺跡	59
7. 島根県出雲市京田遺跡 3区	59

8. 島根県雲南市平田遺跡 第Ⅰ調査区	60
9. 島根県雲南市平田遺跡 第Ⅱ調査区	60
10. 島根県飯南町板屋Ⅲ遺跡 上層	61
11. 島根県飯南町万場Ⅱ遺跡 S135	62
12. 島根県大田市古屋敷遺跡 B・C区	62
13. 島根県大田市古屋敷遺跡 D区	63
14. 鳥取県米子市井手勝遺跡	63
15. 鳥取県米子市目久美遺跡 上層	64
16. 島根県出雲市矢野遺跡	65
17. 鳥取県米子市長砂第4遺跡	65
<b>第7章 隠岐周辺域</b>	66
1. 島根県隠岐の島町宮尾遺跡	66
<b>第8章 近畿北部・丹後～丹波周辺域</b>	67
1. 兵庫県養父市小路頃才ノ木遺跡	67
2. 兵庫県豊岡市見蔵岡遺跡	67
3. 兵庫県豊岡市小森岡遺跡	67
4. 京都府京丹後市裏陰遺跡	68
5. 京都府舞鶴市浦入遺跡	68
6. 京都府舞鶴市桑飼下遺跡	69
<b>第9章 東・西瀬戸内周辺域</b>	71
1. 兵庫県太子町東南遺跡 3区	71
2. 兵庫県南あわじ市谷町筋遺跡	71
3. 愛媛県松山市北井門遺跡 2・3次	71
4. 愛媛県松山市大淵遺跡	72
<b>第10章 北陸西部周辺域</b>	74
1. 石川県金沢市東市瀬遺跡	74
2. 石川県志賀町ヘラソ遺跡 3・4次	74
3. 石川県能登町真脇遺跡 1～3次後期層	75
4. 石川県野々市市御経塚シンデン遺跡	75
5. 石川県加賀市小杉遺跡	76
6. 石川県能登町真脇遺跡 1～3次晩期層	77
<b>第11章 近畿内陸部・琵琶湖周辺域</b>	77
1. 滋賀県大津市滋賀里遺跡	77
<b>第12章 中部地方西部・濃飛周辺域</b>	78
1. 岐阜県揖斐川町いじま遺跡	78
2. 岐阜県高山市上岩野遺跡	78
3. 岐阜県関市高見遺跡	79
4. 岐阜県高山市荒城神社遺跡	79
5. 岐阜県高山市たのもと遺跡	80
6. 岐阜県高山市西田遺跡	80
<b>第13章 中部地方東部・信州周辺域</b>	81
1. 長野県中野市栗林遺跡	81
2. 長野県小諸市三田原遺跡	82

3. 長野県千曲市屋代遺跡群 XII-2層	82
4. 長野県千曲市更埴条里遺跡	83
5. 長野県岡谷市梨久保遺跡 G地点	84

## 第V部 縄文後半期をめぐる新たな展望

<b>第1章 本書の成果（抄）</b>	131
1. 縄文時代中期末～後期前葉前半（J-Stage1～8）	131
2. 縄文時代後期前葉後半～後期中葉（J-Stage9～14）	135
3. 縄文時代後期後葉～晩期前葉（J-Stage15～20）	138
4. 縄文時代晩期中葉～晩期末葉（J-Stage21～28）	141

<b>第2章 今後の展望</b>	143
------------------	-----

<b>参考文献</b>	145
-------------	-----

<b>おわりに</b>	151
-------------	-----



巻末イラスト 有柄狭鋤（曲身系土掘具）で想定される使用法の一例  
(Illustration: 幸泉満夫)

JSPS日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究C）成果学術書Ⅲ【縄文後半期篇】  
일본 학술진흥회 과학 연구비 기반 연구C 성과학술서 Ⅲ【조문 후반기편】

## 対馬暖流ベルト地帯をめぐる 縄文後半期の農耕関連具類に関する再評価

“쓰시마 난류 벨트지대”를 둘러싼 조문 후반기의  
농경 관련 도구류에 관한 재평가

*The Re-Evaluation of Agriculture Related Tools about  
the “Tsushima Warm Current Belt Zone” in the second half of Jomon Period*

編著者 幸泉満夫（研究代表者）

発行日 2024年2月29日

発行者 国立大学法人 愛媛大学法文学部 幸泉研究室  
松山市文京町3番  
TEL (089)927-9292 (dial-in)

印刷所 セキ株式会社 SEKI CO.,LTD.

松山本社：〒790-8686 愛媛県松山市湊町7丁目7番地1  
東京本社：〒151-0053 東京都渋谷区代々木3丁目2番8号